

【1. コードナンバー】の枠内は、**作成者**、**作成日**のみ記入し他は空欄とする。

【テーマ】・50文字以内で表現する。

- ・事例の全体を総括し、最後に記入すると良い。
- ・「事例から引き出したこと」を反映して表現する。

【病名】

- ・ICD-10 を用いて分類する。
- ・まず左側の中分類の▼より該当するものを選択し、次に小分類化から選択する。」
- ・複数ある場合は、事例に関係するもの上位 4 つまでとする。

【概要】

- ・簡潔に転帰まで述べる。
- ・事例内容について、事実と執筆者の意見・解釈を区別する。
- ・倫理規定にのっとり記述する。

【看護の状況】

- ・各枠 168 文字以内で表現する。
- ・看護構造に即して問題状況を選択し、看護介入・結果を記入する。
- ・事実(データ)には、執筆者の解釈・意見を入れない。
- ・時間経過に沿って、簡潔に記入する。

【看護行為の種類】

- ・ 日本看護科学学会編集の看護行為用語分類をもとに分類する。
- ・ **領域**→**分野**→**看護行為**の順に▼より該当するものを選択する。
- ・ 選択肢に当てはまらない場合は、**その他**を選択し、新たに看護行為に当たる言葉を入力する。
- ・ 看護の状況との整合性を考慮する。

事例登録 - [標準フォーム]

6 看護行為の種類 *該当するものを選択する。複数の選択も可。

| 領域 | 分野 | 看護行為 |
|----|----|------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

7 キーワード ①対象者がわかる言葉 ②介入がわかる言葉

8 出典

著者名 _____

サブタイトル名 _____

雑誌名 _____ VOL. NO. ページ 発行 年 月

9 備考(分析者の主観的評価、コメントなど) *情報として足りない部分や活用方法など。

印刷 検索 戻る

【キーワード】

- ・ 対象者がわかる言葉、介入がわかる言葉を各3つ以内まで抽出する。
- ・ 事例から引き出した事を反映する。

【備考】

- ・ 情報として各欄内に記載できなかったことや作成者の主観的評価・コメントなどを入力する。

【事例から引き出したこと】

- ・ この事例と同様の母集団を想定した場合に、客観的に適応できることを記入する。
- ・ 「重要である」「必要である」「大切である」等と表現しない。